平成 29 年度中間決算報告書

80. Love
TOKYO FM

株式会社エフエム東京

事業の経過及び成果

当中間連結会計期間においては、世界的に政治・経済ともに不安定な情勢が続きました。わが国の経済は、企業収益や雇用環境の改善を背景に緩やかな回復の動きが見られましたが、消費マインドは依然停滞しており、景気の先行きが不透明な状況が続きました。
このような環境の中、ラジオ広告市場においては、前期の売上を押し上げた大口のスポット広告出稿の縮小をカバーし切れず、厳しい営業環境となりました。当社グループにおいても放送事業収入が期首から低調に推移し、第 2 四半期で一部挽回をしたものの上期全体ではほぼ前期並みに留まり、イベント興行や法人向け WEB サイトの制作受託など放送以外の事業の減収の影響が加わった結果、グループ全体の連結売上高は 90 億 4 千 2 百万円（前年同期比 3.7%減）となりました。

一方、グループ各社の収支改善やのれん償却費の軽減等の要因により営業利益は 7 億 4 百万円（前年同期比 5.0%増）、経常利益は 5 億 8 千 9 百万円（前年同期比 5.0%増）となりましたが、特別損益の変動の影響により親会社株主に帰属する中間純利益は 3 億 3 千 3 百万円（前年同期比 15.8%減）となりました。

当社単体の業績については、売上高が 64 億 9 千万円（前年同期比 2.6%減)、営業利益が 4 億 7 百万円（前年同期比 0.7%増)、経常利益が 7 億 5 百万円（前年同期比 4.2%増)、中間純利益は 5 億 4 千 4 百万円（前年同期比 4.3%増）となりました。

連結事業セグメント別の営業状況は以下の通りです。

＜放送事業活動＞

当中間期 4 月改編では、編成方針である「共感コミュニティ形成」をさらに推し進めるため、コアターゲット M1F1 層（20～34 歳男女）に感動を提供し共感を得る話題の選定や番組演出、選曲などの見直しの徹底を図りました。また、前後世代をも含めた新規リスナー獲得へ向けた PR 施策として、番組発の情報をネット上のニュースサイトなどに配信し拡散を図る「TOKYO FM+」を強化し、アクセスが月間 1,000 万 PV をはるかに超えて毎月急増するなど、リスナー拡大に努めました。

これらの結果、2017 年 8 月度の首都圏ラジオ合同聴取率調査結果では、当社コアターゲット M1F1 層において、全日平均（6 時～24 時）で単独首位を獲得、10 代男女、20 代男女、30 代男女区分でも単独首位となり、若者層を中心に幅広いリスナー層から高い支持を得る結果となりました。特に好調に推移している F 1 層では、平日主要 9 ワイド番組で首位を獲得しました。また、次世代のラジオリスナーの創造と育成を目指す象徴番組「SCHOOL OF LOCK!」（月曜～木曜 22:00～23:55／金曜 22:00～22:55）が 10 代男女で同時間帯首位を獲得しました。

当社の原点とも言える“午前零時の音楽の定期便”「JET STREAM」（月曜～金曜 24:00～24:55）が、7 月 3 日（月）、番組放送開始 50 周年を迎えました。前日には、東京ミッドタウンのアトリウムにて記念イベント＆公開生放送を実施、機長の大沢たかおをはじめ多彩なゲストが出演し、番組テーマ曲「ミスター・ロンリー」の演奏を 15 年担当していたチェリスト・溝口肇と、今年から新たに演奏を担当しているバイオリニスト・古澤巌がスペシャルセッションを披露するなど、50 年の時を越え、これからの 50 年に想いを馳せる、メモリアルな公開生放送となりました。当日の番組は放送時間を 2 時間に拡大し 50 年を振り返りながら、後半は新進気鋭のアーティストによる生演奏でこれまでの感謝とこれからの更なる前進を表現しました。

当社の行動理念である「アースコンシャス～地球を愛し、感じる心」「ヒューマンコンシャス～生命を愛し、つながる心」を象徴するイベント「EARTH×HEART LIVE」は、今年初めて東京に加えて関西でも開催しました。東京では、一青窈、平原綾香、クリスタル・ケイの 3 人の歌姫が東京国際フォーラムで夢の共演を果たし（5 月 4 日（祝・木）13:00～14:50 放送）、関西では奈良・東大寺の荘厳な大仏殿を背景にしたステージでピーボ・ブライソン、石井竜也らがスペシャルコラボを繰り広げた一夜限りのスペシャルライブ（4 月 22 日(土)19:00～21:00 放送）で、未来の地球を担う子供たちを支える家族の想いと生命の大切さを共に考えようというメッセージを発信しました。

世界のユースカルチャーの最新トレンドを紹介しているワイド番組「TOKYO FM WORLD」（月曜～水曜 20:00～21:15）では、「世界の若者と、感動と共感のネットワークを作る」という当社の理念に基づき、海外の放送局とのネットワークを活用した情報交流をはかると共に、インターネットラジオ・プラットフォーム TuneIn を通じて日本の音楽、カルチャー、観光情報などを多言語で発信しています。その中から、訪日外国人に向けに「Rakugo-Japanese traditional style comedy」「REAL TOKYO」を、9 月より JAL 国際線機内オーディオ・プログラムに従来の「JET STREAM チャンネル」に続いて新たにコンテンツ配信をスタートし、落語という日本文化の面白さや、東京のカルチャースポット情報を英語で紹介しています。

当社は、全国各地で進む人口の減少、地方経済の弱体化の進行という国家的課題に、JFN 加盟全国 38 局と連携して向き合うため、「地方創生推進プロジェクト」を立ち上げました。その第一弾として、現地取材で瀬戸内の魅力を発信していく番組「NAGOMI Setouchi」（土曜 18:30～18:55)を、瀬戸内 7 県との 8 局ネットで放送しており、インバウンド施策の一環として本番組の英語版を、インターネットラジオ「TOKYO FM WORLD」を通じて世界に向けて配信をスタートしています。

9 月には、瀬戸内を囲む 7 県と㈱日本政策投資銀行・地方銀行が初めて横の連携を結び地元企業と合同で地域創生に取り組む「せとうち DMO」（一般社団法人せとうち観光推進機構および株式会社瀬戸内ブランドコーポレーション）と「地域創生に関する連携協定」を締結しました。本協定の締結により当社は放送を核として、新たな観光事業や若者層の UIJ ターンの推進、地元企業との連携によるオリジナル商品の開発・販売等の地域創生に寄与する取り組みを展開し、地中海を遥かに超える多島美の風景を持つせとうち文化圏を世界 No. 1 の和みの地へ発展させることを目指します。

昨年、第 71 回文化庁芸術祭優秀賞を受賞した特別番組「ミュージックドキュメント　井上陽水×ロバート キャンベル『言の葉の海に漕ぎ出して』」（2016 年 11 月 23 日 19:00～20:47 放送）が、6 月「第 54 回ギャラクシー賞」で優秀賞を受賞しました。日本文学研究者のロバート キャンベル氏が陽水作品の歌詞を英訳しようとする中で、日本語の曖昧さが持つ奥深さを紐解いていく異色の対談で構成した番組で、日本語の豊かさを伝える幅広いリスナーが楽しめるクオリティの高い知的教養番組と高く評価されました。
なお同番組は、11 月に日本民間放送連盟賞のラジオ教養部門優秀賞を受賞すると共に、第 13 回日本放送文化大賞のラジオ部門でグランプリを受賞しました。過去、当社は第 1 回、第 4 回、第 10 回の準グランプリと第 3 回の「SCHOOL OF LOCK!」でグランプリを受賞していますが、10 年ぶりとなるグランプリ受賞で番組の質の高さが評価されました。

昨年 7 月にグランドオープンした V-Low マルチメディア放送「i-dio」は、東京・大阪・愛知・福岡で放送しており、檜原・秦野・静岡・浜松・加古川・北九州・久留米・宗像の 8 か所の中継局も開局しています。
首都圏エリアにおいては、東京親局に加えて、東京西部地区（檜原中継局）、神奈川地区（秦野中継局）の 3 局体制により受信環境を強化しました。
現在、音声に限らず全てのデジタルデータを放送波で送ることが可能な i-dio の特性を生かした様々なサービスを展開しています。

コンテンツプロバイダーである TOKYO SMARTCAST㈱のフラッグシップチャンネル「TS ONE（ティーエス ワン）」の編成コンセプトは “Listen･Watch･Share”。地上波デジタル放送最高音質で聴いて、画像を楽しみ、仲間にシェアするという、放送とインターネットがシームレスにつながる新しい聴取スタイルにより、番組のリーチは Twitter フォロワー合計数で 1,650 万人に達しています。TS ONE ではリスナーのアクセス人数や属性、聴取エリアなどが分かるログ解析機能を備え、番組編成へ柔軟に反映させることによりデジタルネイティブ世代を捉え、SNS 拡散力を生かした新しいメディアの楽しみ方を提供し、広告ビジネスを展開しています。

また、TOKYO SMARTCAST㈱は日中国交正常化 45 周年を機に中国最大のメディアグループ「SMG 上海メディアグループ」と業務提携し、共同制作番組「ノウホウ トンジン」を上海と日本で放送、より一層の文化交流を進めています。

ビジネスにおいては、2020 年に 1,000 万人に達すると予想されている中国からの訪日旅行客および拡大する中華圏からの旅行客に「旅マエ・旅ナカ・旅アト」の３つのフェーズで様々な旅行情報を提供する「86 東京（パーリュー・トンジン）」（8 は“幸運・新発見”、6 は“順調・観光”を意味する。）は来年の春節にサービスインを予定しています。中国語による i-dio オリジナルチャンネル放送・WEB・リアルを繋ぐことで訪日中国人を囲いこむ日本初の循環型プラットフォームです。

このプロジェクトのパートナーには、日本の玄関口である羽田空港を運営する「日本空港ビルデング」をはじめ、上海メディアグループ、3 億人の会員を抱える中国最大の旅行会社「C-trip」や「同程旅遊」、ユーザー 7 億人の SNS「微博（ウェイボー）」、アジア 12 か国でインフルエンサー・マーケティングを展開する「WebTV Asia」など中国・アジアの大手メディアや企業が参画しています。

一方、小売、金融、製造業など様々な産業界における IoT データの利活用が進む中、機密情報の漏洩や改ざん、インターネットバンキングよる入出金詐取といった社会問題が顕在化しています。TOKYO SMARTCAST㈱は、これに対応するサイバーセキュリティビジネスにも取り組んでおり、日本電気㈱の軽量認証暗号技術を活用しデータを放送波とインターネットで分割して送るマルチパスルーティングは、実験を終えて関連特許を申請し、実装へ向かう段階に入っています。

アクセス集中による輻輳の恐れが避けられない通信に対して、i-dio の大量のデバイスへ一斉同報できるというアドバンテージを活かした「ホームセキュリティ」「スマートシティ」「コネクティッドカー」への取り組みには大きな期待が集まっています。

㈱アマネク・テレマティクスデザインは、安全で快適なモビリティ社会の実現を目指し、音楽や行楽情報とともに、i-dio のデジタル波を活用して、車の位置に合わせたピンポイントの渋滞予測や天気予報を送るドライバー専用チャンネルを運営しています。また、近年社会問題化している高速道路の「逆走」対策にも取り組み、放送波で指定したエリアだけにデータが送れる技術を活用し、逆走車両が発生している道路路線の車両のみに自動音声で警告する実証実験を本年 11 月から開始します。一方、スバル車オーナーのコミュニティサイトと連携した提供番組、ホンダアクセスの音楽情報サイトと連動した提供番組、カーマガジン「モーターファン」と連携した番組を編成するなど、運転する楽しさを伝える番組作りを進めています。

放送波による自治体防災情報伝達システム「V-ALERT（ブイアラート）」は、自治体での整備が始まっています。兵庫県加古川市では、V-ALERT を採用し、総務省・消防庁が採用する「災害情報伝達手段の高度化」事業をスタート、住民らに配布された i-dio 端末に加えて、サイネージや屋外スピーカーに多面的に情報を配信するほか、放送波による避難場所の自動開錠など複合的な防災機能を実現し、全国の自治体から注目が集まっています。

＜企画・制作事業活動＞

当中間期では、昨年より主催者として参画した日本最大の野外ロック・フェスティバル「ROCK IN JAPAN FESTIVAL 2017」を 8 月 5 日(土)、6 日(日)、11 日(金・祝)、12 日(土)の 4 日間、国営ひたち海浜公園にて開催しました。本イベントは総来場者数 274,000 人、出演アーティストは 200 組という過去 18 年で最大規模となり、中でも、日本ポップミュージック界を 40 年にわたり牽引し続けてきた桑田佳祐の当イベント 15 年ぶりの出演が話題となりました。

8 月 27 日（日）には「SCHOOL OF LOCK!」が送る、10 代限定の夏フェス「未確認フェスティバル 2017」を新木場スタジオコーストで開催しました。このイベントは、音楽に夢を馳せる 10 代のアマチュア・アーティストたちが、グランプリを目指してしのぎを削る“音楽の甲子園”です。全国から寄せられた応募総数 3,199 組の中から予選を勝ち上がった８組の 10 代アーティストがファイナルステージでその未完の才能を披露し、17 歳のシンガーソングライター「リツキ」がグランプリに輝きました。人前で歌うのはこの大会が初めてとは思えない“未確認な才能”に、集まった 4,500 人のオーディエンスは固唾を呑みました。

このほか、2.5 次元ミュージカルの代表作「NARUTO-ナルト-」の新作、2014 年秋以来の待望の来日でアダム・クーパーをはじめとするオリジナルキャストが再集結したミュージカル「SINGIN’ IN THE RAIN ～雨に唄えば～」といった人気作品に出資参画した他、ポール・マッカートニーの東京ドーム公演など海外アーティスト公演を主催するなど様々な活動を行いました。

＜インフォメーションプロバイダー事業活動＞

連結子会社ジグノシステムジャパン㈱では、主力のモバイル端末向けコンテンツ制作・配信事業において、通信キャリアが運営する定額アプリ使い放題サービスへのコンテンツ供給による収入が堅調に推移する中、韓国の「カカオトーク」ユーザーや台湾の「LINE」ユーザーに向けたオリジナル・スタンプの販売など、海外市場への展開を含む新規事業が売上を伸ばし、収益基盤を広げました。

一方、企業向けにアプリや WEB サービスなどの開発受託を行うソリューション事業と、放送広告などを取り扱うメディアビジネス事業においては、前年上期の大型受注を当期はカバー出来ず減収となりました。

＜その他の事業活動＞

小学生の情操教育を目的に運営している TOKYO FM 少年合唱団は、新国立劇場で上演された歌劇「トスカ」への出演など幅広く活動しました。

その他、JFN センタービル等による賃貸事業、直営 2 店舗によるレストラン事業を運営いたしました。

前年同期比較中間損益計算書（連結）

2017年４月１日～2017年９月30日

（単位：千円）

勘定科目	2018年３月期中間期 (2017.4.1～ 2017.9.30)	2017年３月期中間期 (2016.4.1～ 2016.9.30)	前年同期比
売上高	9,042,366	9,393,339	96.3%
売上原価	5,591,679	5,894,760	94.9%
売上総利益	3,450,687	3,498,579	98.6%
販売費及び一般管理費	2,746,057	2,827,436	97.1%
（内 のれん償却額）	－	44,314	－
営業利益	704,630	671,142	105.0%
（売上高営業利益率）	7.8%	7.1%	
営業外収益	78,655	49,048	160.4%
営業外費用	193,584	158,625	122.0%
経常利益	589,701	561,565	105.0%
（売上高経常利益率）	6.5%	6.0%	
特別利益	12,285	120,631	10.2%
特別損失	4,768	19,329	24.7%
税金等調整前中間純利益	597,218	662,867	90.1%
法人税、住民税及び事業税	219,142	167,707	130.7%
法人税等調整額	24,847	79,325	31.3%
中間純利益	353,228	415,834	84.9%
非支配株主に帰属する中間純利益	19,245	19,053	101.0%
親会社株主に帰属する中間純利益	333,983	396,780	84.2%

（注）金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

前年同期比較中間損益計算書（当社単体）

2017年４月１日～2017年９月30日

（単位：千円）

勘定科目	2018年３月期中間期 (2017.4.1～2017.9.30)	2017年３月期中間期 (2016.4.1～2016.9.30)	前年同期比
売上高	6,490,450	6,665,768	97.4%
売上原価	4,118,056	4,275,063	96.3%
売上総利益	2,372,394	2,390,705	99.2%
販売費及び一般管理費	1,964,409	1,985,754	98.9%
営業利益	407,984	404,950	100.7%
（売上高営業利益率）	6.3%	6.1%	
営業外収益	322,899	296,021	109.1%
営業外費用	25,625	23,910	107.2%
経常利益	705,259	677,061	104.2%
（売上高経常利益率）	10.9%	10.2%	
特別利益	－	－	－
特別損失	4,768	12,279	38.8%
税引前中間純利益	700,490	664,781	105.4%
法人税、住民税及び事業税	160,088	108,519	147.5%
法人税等調整額	△ 4,402	33,831	－
中間純利益	544,804	522,431	104.3%

(注)金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

前年同期比較売上高内訳書(当社単体)

2017年４月１日～2017年９月30日

(単位:千円)

	2018年３月期中間期 (2017.4.1～2017.9.30)	2017年３月期中間期 (2016.4.1～2016.9.30)	前年同期比
売上高	6,490,450	6,665,768	97.4%
放送事業収入	5,977,321	6,065,347	98.5%
放送収入	3,804,287	4,127,840	92.2%
タイム放送料	2,780,488	2,864,340	97.1%
スポット放送料	1,023,798	1,263,499	81.0%
制作収入	1,425,819	1,088,794	131.0%
その他	747,214	848,712	88.0%
企画事業収入	349,655	439,081	79.6%
賃貸事業収入	119,311	115,496	103.3%
その他事業収入	44,162	45,842	96.3%

(注)金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

53 期(上期)広告会社取り扱い順位

＜総合順位＞

53 期	52 期	広告会社
1	1	電通
2	2	博報堂ＤＹメディアパートナーズ
3	3	アサツーディ・ケイ
4	5	大日本印刷
5	11	東急エージェンシー
6	6	オリコビジネス＆コミュニケーションズ
7	24	日本経済広告社
8	8	ユータムエンタープライズ
9	9	読売エージェンシー
10	59	全農ビジネスサポート

＜タイム＞

53 期	52 期	広告会社
1	1	電通
2	2	博報堂ＤＹメディアパートナーズ
3	3	アサツーディ・ケイ
4	4	大日本印刷
5	5	オリコビジネス＆コミュニケーションズ
6	17	日本経済広告社
7	6	読売エージェンシー
8	9	東急エージェンシー
9	7	ビデオプロモーション
10	42	全農ビジネスサポート

＜スポット＞

53 期	52 期	広告会社
1	2	電通
2	1	博報堂ＤＹメディアパートナーズ
3	4	アサツーディ・ケイ
4	5	ユータムエンタープライズ
5	11	東急エージェンシー
6	3	エスプロックス
7	31	オリコム
8	6	放送文化事業
9	－	三和広告社
10	10	マッキャンエリクソン

2018年3月期　中間決算短信

2017年11月29日

会社名　　株式会社　エフエム東京
ＵＲＬ http://www.tfm.co.jp
代　　表　　者（役職名）代表取締役社長　　（氏名）　千代　勝美
問 合 せ 先 責 任 者（役職名）執行役員 グループ経営管理室長　（氏名）　山本　朋子　　ＴＥＬ(03)3221-0080
配当支払開始予定日　　2017年12月15日

（百万円未満切捨て）

1．2018年３月期中間期の連結業績（2017年４月１日～2017年９月30日）

（１）連結経営成績　　（%表示は対前年中間期増減率）

	売　上　高		営 業 利 益		経 常 利 益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2018年3月期中間期	9,042	△3.7	704	5.0	589	5.0	333	△15.8
2017年3月期中間期	9,393	2.5	671	△14.0	561	△32.9	396	△55.9

	１株当たり中間純利益		潜在株式調整後1株当たり中間純利益	
	円	銭	円	銭
2018年3月期中間期	372	77	－	－
2017年3月期中間期	442	86	－	－

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2018年3月期中間期	39,829	30,221	74.9
2017年３月期	39,462	29,907	74.8

（参考）自己資本　2018年３月期中間期 29,830百万円　　2017年３月期　29,526百万円

2．配当の状況

	年間配当金					
	中間期末		期末		合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
2017年３月期	60	00	60	00	120	00
2018年３月期	60	00				
2018年３月期（予想）			60	00	120	00

※注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）　　無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　　無
② ①以外の会計方針の変更　　無
③ 会計上の見積りの変更　　無
④ 修正再表示　　無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）　2018年３月期中間期　900,000株　2017年３月期中間期　900,000株
② 期末自己株式数　2018年３月期中間期　4,057株　2017年３月期中間期　4,057株
③ 期中平均株式数（中間期）　2018年３月期中間期　895,943株　2017年３月期中間期　895,943株

（参考）個別業績の概要

（百万円未満切捨て）

1．2018年３月期中間期の個別業績（2017年４月１日～2017年９月30日）

（１）個別経営成績　（%表示は対前年中間期増減率）

	売　上　高		営 業 利 益		経 常 利 益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2018年3月期中間期	6,490	△2.6	407	0.7	705	4.2	544	4.3
2017年3月期中間期	6,665	△2.4	404	△23.6	677	△13.3	522	△51.7

	１株当たり中間純利益	
	円	銭
2018年3月期中間期	605	34
2017年3月期中間期	580	48

（２）個別財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2018年3月期中間期	39,242	30,795	78.5
2017年３月期	38,608	30,296	78.5